

10月9日「日本の書展」オープニング（於：カルースト・グルベンキアン財団）  
東博史駐ポルトガル日本国大使挨拶

本日、常日頃から日本文化に理解を示しご協力いただいているカルースト・グルベンキアン財団において、ポルトガルで初めての開催となる「日本の書展」の開会式に出席できることを光栄に存じます。

書展の会場をご提供いただいたアルトゥール・サントス・シルヴァ同財団理事長、並びに、海外に書を広めるという信念をもたれ活動されている荒船全国書美術振興会会長に対し、心より感謝申し上げます。

今年は、日本とポルトガルの両国にとって、歴史的な一年となりました。まずは、安倍晋三内閣総理大臣が、日本の現職総理大臣として初めてポルトガルを訪問されました。また、稲田内閣府特命担当大臣（当時）も当国を訪問され、グルベンキアン財団のご協力により、同財団にてクールジャパン戦略に関する講演を行いました。

さらに、7月には日本がCPLP（ポルトガル語圏諸国共同体）のオブザーバーとして承認されました。これにより、日本とCPLPとの関係において、新たな協力関係を築く契機となることが期待されます。

これらの出来事は、一層の発展が期待される両国間関係の活性化に繋がるものであると考えます。

日本とポルトガルの長い交流の歴史において、これほど意義深く重要な年に、このような芸術性の高い事業を開催できることは、まさに時宜を得たものであり、文化の相互理解に資するものであると確信しております。

先ほど荒船全国書美術振興会会長からお話があったとおり、書は日本文化の結晶であり、日本芸術の神髄を紹介する同展覧会を、当館がこれまでも友好的な関係を築いてきたカルースト・グルベンキアン財団において開催できることを非常に嬉しく存じます。

この展覧会の開催は、両国間の歴史的な友好関係がこの先もより長く、友情と文化交流に満ちたものへとなるよう導いてくれるものと期待しております。

皆様、「日本の書展」をお楽しみください。本日はお越しいただき、誠にありがとうございました。